



「残り物」、飼料に活躍

eco活
エコカツプラス

「残り物」は、古くから煮干の
飼料として使われてきた。特に
ここ10年ほどは「エコフィー
ド」と呼ばれ、活用が広がって
いる。価格の安さや、環境への
配慮をアピールできるメリット
だけでなく、使いかた次第で、
こだわりの肉の味につながるよ
して重宝されている。

愛知県豊橋市の「ホテルアクリッシユ豊橋」では、ブランド豚「三朴豚」^{ミツブタ}のベーコンやハムをレストランで提供している。ハムをいただぐと、肉厚で脂はあつさり。総料理長の今田武さんは「脂に甘みがあるって、おいしいと評判です」と語る。

でも、こだわれば味がよくなる」と話す。

「まだ食べられるものも捨てられてしまい、もったいない。ひと工夫すれば資源になる」。トヨタファームなどに飼料を出荷する環境テクシス（同県豊川市）の高橋慶社長は話す。

08年にエコファイードを作り始めた。バウムクーヘンの切れ端やあめ玉、うどん、パン粉など約10～20種を年間約3千トン仕入れ、飼料にしている。配合や量

・愛知県豊田市)の農場を訪ねると、飼料置き場にサンドイッチを作る際に出たパンの耳が積まれていた。一部が欠けて売られた物にならなかつたビスケットなどを加え飼料にする。

同社がこだわっているのは、小麦が原材料のものを使うことだ。植物性の飼料は豚肉のサシ(霜降り)が増えたり、くさりが減つたりするといふ。飼料比率一代表は「残り物と聞くとイメージが良くないかもしない。

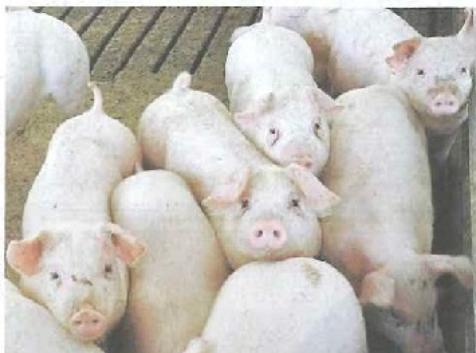
「まだ食べられるものも捨てられてしまい、もったいない。ひと工夫すれば資源になる」。トヨタファームなどに飼料を出售する環境テクシス（同県豊川市）の高橋慶社長は話す。08年にエコファイードを作り始めた。バウムクーヘンの切れ端やあめ玉、うどん、パン粉などを約10～20種を年間約3千トン仕入れ、飼料にしている。配合や量を畜産農家と話し合うなどしながら、肉質を向上させていくという。

ているかなど、一定の基準を満たせば安全だとして、容器などにマークを表示できる。現在、豚肉や鶏卵など8銘柄が認証を受けている。農水省と中央畜産会は、取得を目指す業者向けに勉強会を開くなど支援をする予定。同省飼料課の担当者は「消費者の目にとまるよう、認証制度を広げていきたい」と話している。

ドといふ名称が使われ始めたのは55年ごろ。製造業者は349社（16年5月現在）で、10年間で2倍になったという。エコフ



エコフィードになるバ
ウムクーヘンの切れ端



HΠΠイードを食べて育つ
「三州豚」＝愛知県田原市



エコフィードになるあめ玉。
溶かして液体にして使うとい
う=いすれも愛知県豊川市



中央畜産会では、エコフィードを使った先進事例を表彰している。昨年度はブランド豚を育てている千葉県の業者や、おからなどから飼料を作り乳牛や肉牛を育てている島根県の業者などが選ばれた。詳しくは中央畜産会のサイト(<http://ecofeed.lin.gr.jp>)で確認できる。